— 観 察 記 録 —

千葉県九十九里浜におけるミズカキチドリ *Charadrius semipalmatus* の観察記録

加藤 匠¹・時田賢一^{2,*}・池長裕史^{3,***}

¹ 〒 275-0016 千葉県習志野市津田沼 7-10-16

² 我孫子市鳥の博物館 〒 270-1145 千葉県我孫子市高野山 234-3

³ (独)農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 〒 305-8666 茨城県つくば市観音台 3-1-1

(2013 年 2 月 28 日受付；2013 年 10 月 2 日受理)

キーワード：ミズカキチドリ, *Charadrius semipalmatus*, 千葉県.

日本鳥学会誌

Japanese Journal of
Ornithology

© The Ornithological Society
of Japan 2014

Takumi KATOU¹, Ken-ichi TOKITA^{2,*}, Hiroshi IKENAGA^{3,***}. 2014. A record of Semipalmated Plover *Charadrius semipalmatus* at Kujukuri Beach, Chiba Prefecture. Jpn J Ornithol 63: 71–74.

Key words: Semipalmated Plover, *Charadrius semipalmatus*, Chiba Prefecture.

¹ 7-10-16 Tsudanuma, Narashino-shi, Chiba 275-0016, Japan.

² Abiko City Museum of Birds, 34-3, Kohnoyama, Abiko-shi, Chiba 270-1145, Japan.

³ ARO Agricultural Research Center, 3-1-1 Kannoundai, Tsukuba-shi, 305-8666, Japan.

1. 種名・観察個体数：ミズカキチドリ *Charadrius semipalmatus* 1 羽.

2. 観察者名：加藤 匠.

3. 観察日時・場所：2012 年 9 月 21 日 9:45 頃～10:40 頃，千葉県長生郡一宮町新地 (35°23'22"N, 140°23'20"E 付近) の砂浜.

4. 観察距離：約 150 m の距離で発見し，その後最短 7 m 程度まで接近して観察・撮影した．撮影には 300 mm の望遠レンズに 1.7 倍のテレコンバータを装着したデジタル一眼カメラを用いた．

5. 観察した環境：本個体を観察した一宮町は千葉県房総半島九十九里浜の南部に位置している．一宮川はその街中を緩やかに流れ，河口近くの 600 m ほどは幅 100–150 m ほどの海岸砂丘と松林

を挟んで海岸線とほぼ平行に北へ向かって流れ，その後大きく右に曲がり 200 m ほどで海へと流れ出しており，全体的には大きな S 形状である．河口までは両岸ともコンクリートで護岸されている．河口近くのこの区間は，下流に向かって左岸には砂浜と小規模な葦原があり，この砂浜上には河川上流部や海からの漂着物が散在している．この河川内の砂浜には低潮時に砂泥質の干潟が現れる．一宮川河口やその周辺の砂浜は春と秋の渡り時期には多くのシギ・チドリ類が立ち寄り羽を休めていく場所であり，ミユビシギ *Calidris alba* やハマシギ *C. alpina* の越冬も見られる場所でもある．観察時は満潮の潮止まり状態で干潟部分は水没しており，本個体はこの河川内に存在する砂浜に飛来した．当日の天候は曇りのち雨であった．

6. 形態に関する記述：周囲に比較できる鳥がいなかったため，体サイズは示せないが，いわゆるチドリ型の体型をした小型の鳥であった．頭部は丸く，嘴は太く短く黒色で，基部はオレンジ色で，オレンジ色の部分は下嘴では大きく上嘴では小さかった．上嘴の基部附近から額は白く，その

* E-mail: tokita@green.ocn.ne.jp

** 現所属：岩手大学

〒 020-8550 岩手県盛岡市上田 3-18-8

*** 現所属：(独)農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター久留米 (筑後・久留米研究拠点)

〒 839-8503 福岡県久留米市御井町 1823-1

doi:10.3838/jjo.63.71

JOI:JST.JSTAGE/jjo/63.71

まま目の後ろまで細い眉斑をなしており、眉斑は後方ではやや広がっていた。不鮮明ではあるが囲眼輪が認められた。額の上から頭部は全体的に茶褐色で、眉斑の後ろから目の下、頬にかけては暗褐色であった。その暗褐色部は細くなって嘴基部の上方つながっているように見えたが、口角にはつながっていなかった。胸帯は黒褐色で、途切れることなくつながっていたが、胸側で幅広く、胸の中央部では急激に細くなっていた。頸を一周する白色部の下側から背面全体、雨覆、三列風切までは頭部と同様に一様に茶褐色で上背・肩羽・小雨覆・中雨覆の羽毛に微かな白い羽縁と、暗褐色の細い軸斑が見られた。また、撮影した画像を拡大すると、羽縁が不揃いで、摩耗・褪色が進んでいることがわかった。初列風切は黒っぽく、痛んでおらず、先端はほぼ尾羽の先端と重なっているように見えた。また、尾は淡い黒褐色で縁が白く

見えた。伸びをしたとき（図2）と飛翔姿を後方から見たときに初列風切中央部に白帯があることが確認できた。後頸から胸帯に沿って喉までと、胸帯から後の腹、下尾筒までは白色であった。足は全体的にオレンジ色味のある黄色で、歩行時に趾が開くと間に蹼があることが確認できた。趾の間の蹼は中趾と外趾の間の蹼が広く大きく、内趾と中趾の間の蹼はそれに対して小さめであった。この内側の蹼は観察が難しかったが、同個体が砂上にいたことから、歩行を止めて立っている時も泥汚れが無く、撮影した画像から、明らかに確認する事ができた（図1, 2）。ただし、歩行中に脚を上げている時には趾をすぼめるため蹼の有無は確認できなかった。

7. 計測値：—

8. 種を同定した規準：観察時は一羽のみであり、周囲に大きさなどを比べる鳥がいなかったが、

図1. 一宮町新地付近で観察されたミズカキチドリ。（2012年9月21日、撮影：加藤 匠）

Fig. 1. The Semipalmated Plover observed near Shinchichi, Ichinomiya-machi. Photographed by T. Katou on 21 September 2012.

図2. 一宮町新地付近で観察されたミズカキチドリ。内外の趾に蹼が確認できる。（2012年9月21日、撮影：加藤 匠）

Fig. 2. The Semipalmated Plover observed near Shinchichi, Ichinomiya-machi, showing the characteristic webs between the outer, middle and inner toes. Photographed by T. Katou on 21 September 2012.

体型と距離感から、一見してチドリ科 *Charadriidae* の小型のチドリ類 (*Charadrius* 属) の一種であると判断した。150 m ほど先の砂浜にいる本個体を観察した時点でオレンジ色の足と、頭部の色合い、黒褐色の胸帯がつながっていることが確認されたことから、砂浜の環境でしばしば観察されるシロチドリ *C. alexandrinus* は除外した。国内で記録のある *Charadrius* 属で、黒褐色の胸帯がつながり、足が黄色系の種はコチドリ *C. dubius*、イカルチドリ *C. placidus*、ハジロコチドリ *C. hiaticula* およびミズカキチドリ *C. semipalmatus* に限定される (del Hoyo et al. 1996; Message & Taylor 2005; 日本鳥学会 2012)。本個体に接近し、20 m ほどの距離から観察、撮影した際に嘴の基部にオレンジ色が認められたことから、コチドリおよびイカルチドリではないことが確認され、観察者はこの時点でハジロコチドリの夏羽を残す個体と考えていた。しかし、更に接近した観察、撮影によって、本個体では過眼線が口角の上にあることが確認され、また胸帯が胸の中央部で細くなっていたことから、ミズカキチドリの可能性があると考えた (Mullarney 1991)。両種の決定的な識別点は趾の蹼であり、ハジロコチドリの場合は外側の趾と中央の趾の間に小さな蹼がみられるが、内側の趾と中央の趾の間には蹼がない。一方、ミズカキチドリの場合は外側の趾と中央の趾の間にやや大きめの蹼がみられ、さらに内側の趾と中央の趾の間にも小さいながら蹼が存在する (Prater et al. 1977; 茂田 1991; Message & Taylor 2005; Paulson 2005; O'Brien et al. 2006)。本個体ではこの特徴が確認され (図 2)、ミズカキチドリと判断された。ミズカキチドリとハジロコチドリの識別は難しく、従来、決定的な特徴である趾の蹼を確認しなければミズカキチドリと断定することはできないとされている (Prater et al. 1977; 茂田 1991; Mullarney 1991; Message & Taylor 2005 など)。チドリ類は水田や干潟などの湿地に棲息するため、その趾は水の中にあたり、泥で汚れていたりするため、蹼の確認が困難であることが多い。また、我が国ではハジロコチドリも Irregular Visitor あるいは Accidental Visitor として少数が渡来するだけであり (日本鳥学会 2012)、これまで日本で両種を同時に比較した観察事例は後述する福岡県和白干潟の事例のみと思われる。本個体は単独個体であったが、砂浜に出現したため、趾と蹼の確認が比較的容易であった。また、高画質のデジタルカメラにより、細部まで鮮明な画像が得られたことも、本種の識別を助けている。

さらに、蹼の特徴以外に本種の識別点とされる特徴についても検討した。Mullarney (1991) は幼鳥の識別点としてハジロコチドリでは目先の暗色部が太く、口角に接しているが、ミズカキチドリではその暗色部は細く、口角には接していないとしている。このことは成鳥冬羽でも確認されており (橋本 2007)、本個体も同様の特徴を持っていた。なお、この特徴は新潟県長岡市で観察された個体においても確認されている (小林 2010; 渡辺 央 私信) が、同個体は羽毛に亜終端線 (茂田・佐野 1986; subterminal band) が明瞭であったことから幼鳥と考えられ (Prater et al. 1977; 小林茂樹 私信)、この個体もミズカキチドリであった可能性が高い。また、鳴き声について、ハジロコチドリは柔らかな「ピウーッ」と聞こえるのに対して、ミズカキチドリでは甲高く「チュイー」と聞こえるとされる。また、後述の「観察した行動」で示したように本個体の鳴き声の特徴からも、本種と判断できるものとする。本種の鳴き声は橋本 (2007) でも確認されており、野外でミズカキチドリを識別する最も有効な手段とされる (Paulson 2005)。福岡県和白干潟の事例では、同所にいたハジロコチドリとの鳴き声の違いでミズカキチドリと考えたとのことであり、体サイズがやや小さいこと、夏羽になった個体の眉斑の小ささ、より太短い嘴、微かな囲眼輪等で本種と判断したという (Nial Moores 私信)。囲眼輪の有無については、成鳥においてはより特徴的な識別点とされる (Dunn 1993) が、雌成鳥や幼鳥、冬羽においては詳細な観察が必要となる。両種の識別点については茂田 (1991) によって整理されているが、野外での観察においては、①鳴き声の違い、②遠距離から、胸帯の幅が中央部で細くなっている点、③やや近距離から口角にかかる暗色部の幅、④より近距離からは囲眼輪の有無、等により、蹼以外の特徴からもハジロコチドリと本種を識別できる可能性がある。本個体は、同じく 9 月に観察された新潟の個体とは異なり、羽毛に幼羽の特徴である明瞭な亜終端線は見られなかったが、上背等に幼羽が残っているように見えたことから幼鳥または第 1 回冬羽への移行個体の可能性が高い。しかしながら、本個体の羽毛は全体として摩耗が進んでおり、年齢の断定は難しいと考える。

9. 観察した行動：観察個体は海上方向から飛来し、波打ち際の砂浜に舞い降りたが、直ぐに打ち上げられていた竹材に寄り添い身を隠す行動をとった。周辺に他の鳥が全く居ない状況で、警戒

している様子に見えた。しばらくして竹材の周辺を中心に波打ち際を移動しながら採餌をはじめた。数歩移動しては動きを止め、また数歩移動するという動作を繰り返しながらゴカイ類を砂中から引き出して食べていた。これらの一連の動作は他の小型チドリ類に見られる行動と同様であった。二声ずつ数回鳴いたが、その声は甲高い声で「チュイー、チュイー」と聞き取れた。上空を飛ぶトビ *Milvus migrans* に警戒して漂着ゴミに沿って身を低くして伏せる行動をとり、直後に海方向に飛び去った。

10. 写真：あり（図 1, 2）。

11. 死体・標本保管場所：—

12. 過去の記録とその文献：日本鳥類目録編集委員会（2000）には記載されておらず、日本鳥学会（2012）で Accidental Visitor として本州（愛知 2006 年 11 月～2007 年 5 月）の記録が掲載されている。この記録は、愛知県愛西市三和町での記録（橋本 2007）と考えられる。本種については、この他に 1992 年 4～5 月に千葉県谷津干潟で観察されているが 1 枚の写真のみで、観察された個体についての説明はされていない（桐原ら 2009, 掲載されている写真の日付は誤植である；桐原政志 私信）。また、本種の同定について上述したが、1996 年 4 月と 1997 年 4 月に福岡県和白干潟での観察情報があり（Nial Moores 私信；岡部海都 私信）、2009 年 9 月 12～16 日に新潟県長岡市で本種と考えられる個体が観察・撮影されている（小林 2010）。

13. その他：本個体観察日の前日にあたる 9 月 20 日 11 時 30 分頃、同所において高橋由美子氏により「ハジロコチドリ」が観察、撮影されている。同個体は飛来してわずかな時間で飛去したとのことであるが、提供された画像から本個体と同一と考えられる。同地においては、さらに、9 月 26 日 07 時 40 分頃、永井真人氏により本個体と思われる観察、撮影情報がある。

14. 考察：本種は北米大陸北部に繁殖分布し、北米中南部から南端域を除く中南米全域の沿岸部で越冬するとされる（del Hoyo et al. 1996）。ヨーロッパでは 1978 年のイギリス南西部の記録（Hayman et al. 1986）などの迷行が知られていたが、アジアでは橋本（2007）の報告まで正式な記録がなかった。それは、これまでミズカキチドリとハジロコチドリの識別点となる蹼の特徴は捕獲せずに確認することが難しかったためと思われる。

細部まで撮影できる高画質のデジタルカメラの普及により、蹼の特徴が記録されるようになっていく。これまでの国内での観察事例から、蹼以外の特徴でもハジロコチドリと本種を識別できる可能性が示唆されることから、今後、本種の確認事例が増えるものと考えられる。

本稿をまとめるにあたり、種の同定に関して貴重な資料およびご意見をいただいた大西敏一氏、観察個体についての情報をお知らせいただいた永井真人、高橋由美子の両氏、過去の記録についてご教示いただいた桐原政志、小林茂樹、Nial Moores、岡部海都、渡辺 央の各氏、並びに丁寧なコメントを下された査読者および和文誌編集委員会に感謝申し上げる。

引用文献

- del Hoyo J, Elliott A & Sargatal J (eds) (1996) *Handbook of the birds of the world. Vol 3. Hoazin to Auks*. Lynx Edicions, Barcelona.
- Dunn J L (1993) The identification of Semipalmated Plover and Common Ringed Plovers in Alternate Plumage. *Birding* 25: 238–243.
- 橋本宣弘 (2007) 日本におけるミズカキチドリ *Charadrius semipalmatus* の初記録. 山階鳥学誌 39: 27–30.
- Hayman P, Marchant J & Prater T (1986) *Shorebirds. An identification guide to the waders of the world*. Houghton Mifflin Company, Boston.
- 桐原政志・山形則男・吉野俊幸 (2009) 日本の鳥 550 水辺の鳥 増補改訂版. 文一総合出版, 東京.
- 小林茂樹 (2010) 珍鳥情報 ミズカキチドリか？ 新潟野鳥 (151): 7.
- Message S & Taylor D (2005) *Shorebirds of North America, Europe, and Asia. A Guide to Field Identification*. Princeton Univ Press, Princeton.
- Mullarney, K (1991) Identification of Semipalmated Plover: A New Feature. *Birding World* 4: 254–258.
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録改訂第 7 版. 日本鳥学会, 三田.
- 日本鳥類目録編集委員会 (編) (2000) 日本鳥類目録改訂第 6 版. 日本鳥学会, 帯広.
- O'Brien M, Crossley R & Karlson K (2006) *The Shorebird Guide*. Houghton Mifflin Company, New York.
- Paulson D (2005) *Shorebirds of North America*. Princeton Univ Press, Princeton.
- Prater T, Marchant J & Vuorinen J (1977) *Guide to the Identification and Ageing of Holarctic Waders*. British Trust for Ornithology, Tring.
- 茂田良光 (1991) 形態と識別 10 ハジロコチドリーミズカキチドリとの識別. *BIRDER* 5(12): 46–15.
- 茂田良光・佐野裕彦 (1986) 鳥体各部の名称. 日本鳥類標識協会誌 1: 56–69.